

Please join us!

OSAKA 大阪おおさかの街

— for the city of Osaka —

スポーツが拓く社会参加

大阪市長居障害者スポーツセンター

オリンピックと同じ年、同じ場所で開催されるパラリンピック。力強く活躍する選手の姿は、多くの人たちに大きな驚きと深い感銘を与えます。日本では、昭和39年（1964）に第二回パラリンピックが東京で開催され、障害者スポーツが広く認知されるきっかけになりました。大阪市長居障害者スポーツセンターは、昭和49年（1974）に誕生した、日本初の総合的な障害者スポーツ施設です。館長の小林智志さんにお話を伺いました。

日本初の障害者スポーツセンター

大阪市長居障害者スポーツセンターは、障害を持つ人の「体力の維持・増進、身体機能の回復と向上」と、「社会参加と自立」をサポートする施設として創設されました。計画当時、国内には前例がなかったため、第二次世界大戦中、イギリスで開設されたストーク・マンデビル病院の脊髄損傷者センターを参考にしました。管理・運営は社会福祉法人 大阪市障害者福祉スポーツ協会が行っています。

当スポーツセンターでは常に先進的な取り組みを行っており、利用者の方々に、共に汗を流し社会参加を目指す「グループづくり」を進めてもらう事を目指しています。センターでは、障害のある人がひとりですら来所されても、いつでも気軽にスポーツを楽しめるよう、指導員が常駐。ハンディキャップを考慮した、新しい用具の開発や様々なゲームの考案など、普及活動も行っています。施設は、安全であること、段差がないこと、案内がわかりやすいことを心懸けて設計されています。

昭和56年（1981）の国際障害者年に来日したスウェーデン国王から、その設備と人的配慮に、「世界一」と賞賛されました。現在一日平均500人の利用者がこのクラブで汗を流しています。

個々の能力を引き出す

創設以来、変わらない基本方針は、障害のある人やその家族にスポーツや文化活動を気兼ねなく楽しんでいただくこと。利用者は、障害を少し



高次脳機能障害者のふれあい活動 風船バレーボール

でも軽くしようとする。健康の維持と増進。レクリエーション・文化活動への参加。スポーツ上達。の目的で来所します。センターでは、スポーツ医事相談日を設けて医師や理学療法士がアドバイスを行い、各人の体力や障害に応じ、適切な種目やトレーニング方法などの情報を提供しています。

特に積極的に展開している事業は、スポーツ教室です。初心者を対象に、スポーツの正しい知識や技能、マナーを身につけるだけでなく、日常の生活習慣の中でも健康を増進し、精神的にも豊かな生活を送ることを提案するカリキュラムとなっています。定例のスポーツ教室は年3回、10週間にわたってアーチェリー、卓球、水泳、各種トレーニング、軽スポーツなどが開講されています。この他、春・夏休みには小中学生を対象に水泳教室が開かれます。冬には、毎年、長野県飯山市の北竜スキー場で4泊5日のスキー教室が開催され、大きな喜びと自信を培うイベントとなっています。運営にあたっては、学校の先生やスポーツ指導員を目標している方たちの協力を得て、受講生ひとり一人に適切な指導を行っています。



アーチェリー体験教室

コミュニケーションの拡大

平成9年には第33回全国身体障害者スポーツ大会ふれあいピック大阪が開催され、長居障害者スポーツセンターは卓球会場、水泳の練習場として多くの観客や選手で賑わいました。大会の運営と日頃の活動には、スポーツ指導者やボランティアの協力が欠かせません。講習会を通してボランティア育成、専門のスポーツ指導員の養成にも取り組んでいます。

スポーツ以外にも手話や点字の講習会、将棋・囲碁大会なども開催され、利用者が地域と交流するコミュニケーションセンターとしても活用されています。毎週日曜日には遊技室がおもちゃ広場として解放され、障害の有無を超えた子ども同士の交流や、保護者同士の情報交換が行われています。その他、大阪サッカークラブの協力を得て、Jリーグセレソン大阪のゲーム観戦招待も行われました。

センターの取り組みがきっかけとなり、企業や社会、地域、利用者間のネットワークが育ち、障害者の社会参加を促進しています。寝たきりだった人も、センターを利用する事でスポーツを楽しむようになり、たくさんの仲間をつくっています。センターでは、スポーツや文化活動を通して親と子が、家族が、友達が、職員が、みんな明るく声を出し合っ

て充実した時間を共有しています。
「当センターは、障害を一つの個性と考え、障害のあるなしにかかわらずお互いを補いあうことによって、分け隔て無くつきあうことが出来るコミュニケーション施設を目指しています」と小林館長。

「初めてスポーツセンターを訪れた時、本当にスポーツが楽しめるのかどうか不安でした。受付でとまどっていると指導員の先生が館内を案内してくれました。様々な障害のある人

たちが、活き活きとしている姿をみて期待が膨らんだことを覚えています。何回か通ううちにもう少し本格的にスポーツを習いたくなり卓球教室に通いました。障害のない人たちとも一緒にスポーツで汗を流すなど、交流も広がりました。私はここに来て本当に良かったと思います。スポーツの楽しさを知り、たくさんの友達を作ることが出来たからです」との利用者の言葉が、センターが障害者の新たな未来を拓く施設である事を物語っています。

大阪市長居障害者スポーツセンター

大阪市東住吉区長居公園 1-32

電話 06・6697・8681

<http://fukspo.org/nagai/ssc/>

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞